

平成18年度 一般会計補正予算 などを可決

～平成18年第4回定例会

12月13日に閉会した第4回定例会の中から、12月1日以降の審議内容についてお知らせします。

編集●札幌市議会事務局 ☎211-3162 FAX218-5143 市議会ホームページ●www.city.sapporo.jp/gikai

代表質問から

今回の定例会では、十二月五・六日の二日間の日程で代表質問を行いました。その中から主なものをお知らせします。

市民活動促進条例

五十嵐 徳美(自民党)

問 これからは、あらゆる市民活動を視野に入れた、市民活動促進施策の展開が求められているにもかかわらず、市の条例案提出に至る経緯を見ても、拙速の感は否めない。条例制定後の具体的な運用の中身が全く不透明であり、もっと市民に対して運用の具体的な内容を示して、議論を深める時間が必要である。自治基本条例にもあるように、情報の提供という部分においては、全く矛盾する進め方ではないか。条例を成立させればよいとの勇み足の条例案提出であると言わざるを得ないが、市長の考えを伺いたい。

答 市民活動促進条例に関する議論では、八回の市民会議、二回のワークショップ、市民三千人・市民活動団体千七百団体・企業千社のアンケート調査に加え、商店街関係者、

ボランティア団体、青年会議所などとの意見交換を行い、これらの意見などを踏まえ、条例素案を作成してきたものである。条例における基金や市民活動促進テーパーの内容については、パブリックコメントの中で解説を付した上で、市民の皆さんに公表し、その後頂いた四百六件の意見を参考に、この度の条例案をまとめたものである。このような経過を踏まえ、条例案については、今定例会に提案したものである。



いじめ防止に対する取り組み

林家 とんでん平(民主党・市民連合)

問 教育委員会は、平成十年度から十五年度までは「心の

教室相談員」および平成十三年度からは「スクールカウンセラー」活用事業を市立中学校・高等学校で実施してきた。「心の教室相談員」を活用し、いじめなどに一定の成果が確認できた学校の取り組み状況を分析し、その成果を「スクールカウンセラー」と併せて活用すべきと考えるが、いかがか。

各学校では、教師が児童・生徒とのかかわりを持つための時間を取ることができない状況となっている。子供たちと学校で一番接する機会がある教師が、「コミュニケーション」を図る時間を確保できるような教育委員会としても配慮すべきと考えるが、いかがか。

答 スクールカウンセラー連絡協議会などにおいて、子供の悩みを気軽に話せる雰囲気づくりなど、「心の教室相談員」が果たしてきた役割と成果についても研修を深め、その活用を図っていききたい。

いじめの早期発見や解決などに当たっては、日ごろから教師があらゆる機会を通して、積極的にコミュニケーションを図っていくことが重要である。教育委員会としては、学校業務全般の効率化を進めるとともに、各学校においても、

会議などを今まで以上に精選するなどし、子供と教師のコミュニケーションを図る時間がより一層確保されるよう努めたいと考えている。



食育推進計画

青山 浪子(公明党)

問 食生活の改善や食の安全の確保、また市民自らが食の在り方を学ぶことなど、食育に関する課題は多岐にわたっている。これらの課題に対処し、実効性ある食育の推進を図るためには、本市においても、食育推進計画を策定すべきと考えるが、いかがか。また、食育推進会議の設置に当たっては、関係団体、市民が一体となって食育の推進に取り組むことができるものにするべきと考えるが、いかがか。

答 食育を推進することは、生涯にわたって健全な心身を養い、豊かな人間性をはぐくむという観点から重要な取り